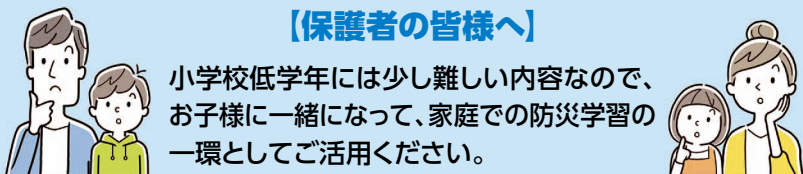


関東大震災

学習リーフレット

【保護者の皆様へ】



小学校低学年には少し難しい内容なので、お子様と一緒に、家庭での防災学習の一環としてご活用ください。

関東大震災とは

大正12年(1923)9月1日午前11時58分、相模湾北西部を震源とするマグニチュード7.9と推定される関東大震災が発生しました。大きな余震も続き、死者・行方不明者約10万5,000人に及び、甚大な被害をもたらしました。当日は昼の調理時間帯と重なったことから多くの火災が発生し、また、台風通過による強風で延焼が拡大し、東京市では約30万戸が焼失しました。台東区でも死者・行方不明者約4,500名、倒壊・焼失家屋9万3,000戸となり、浅草区では約93%が焼失しました。上野公園には一時約50万人が避難し、その後、園内や不忍池周辺には避難施設が立ち並びました。

復興公園・復興小学校

帝都復興計画により、不燃化構造のコンクリート建築で、ガスや電灯、水道などの設備を完備する近代的な小学校舎が東京市内で117校建設されました。これらの復興小学校の一部には、隣接して復興小公園が52か所整備され、避難場所としての機能を持ちました。台東区では復興小学校が33校、改築小学校が1校建設され、復興小公園が15か所整備されました。また、復興大公園(三大公園)として、隅田公園、浜町公園、錦糸公園の3か所が東京市内に整備されました。台東区側の隅田公園には、当時からスポーツ施設や児童の遊び場があり、今も開設当時と同等の機能を有しています。

たいとう 関東大震災100年事業



関東大震災100年

幾多の災害を乗り越えてきた東京
備えよう、明日の防災

4 吉原観音

5 上野大仏

2 旧小島小学校
(現 台東区中小企業
振興センター)

1 浅草寺のイチョウ

3 浅草凌雲閣記念碑

6 防火守護地之碑

その他の遺構等や、詳しい位置情報は右記二次元コードから確認できます。

◀ Google map
「台東区内関東大震災遺構等所在地」

都市復興 道路・区画整理

関東大震災からの復興のための区画整理事業は、帝都復興土地区画整理事業と呼ばれ、台東区では谷中地域と上野公園のほか、根岸地域の大部分を除いたほとんどの地域が事業対象となりました。明治期の区画整理が進まない中で、震災復興を契機とし、昭和通り、蔵前橋通りなど、江戸期の町割を活かしながらも、道路を延焼遮断帯とした街並みの骨格となりました。桜橋を除く隅田川にかかる橋脚は、鉄橋に架け替えられ、現在にも引き継がれています。




台東区内にある 関東大震災のあしあと

区内には、関東大震災の犠牲者の慰霊碑や惨禍を後世に伝える遺構等があります。過去の災害教訓を踏まえて、災害に対する備えを見直しましょう。


1 浅草寺のイチョウ
(浅草2-3)

震災の際、イチョウが浅草寺本堂などへ延焼を防いだことにより、境内に5万人もの人が避難して救われた。その後、東京大空襲で被災し、焼け焦げた跡が残る。




2 浅草凌雲閣記念碑
(浅草2-14-5)

凌雲閣は、当時の日本で一番高い建築物であり、日本初の電動式エレベーターが設置された。




3 旧小島小学校
(現 台東区中小企業振興センター)
(小島2-9-18)

昭和モダンを感じさせる丸い塔のデザインが目印。昭和3年竣工。復興小公園の小島公園に隣接。




4 吉原観音
(千束3-22)

当時あった弁財池で、火災から逃げてきた遊女をはじめ、490名が亡くなった。地元の方が供養碑を建立し、今も毎年、供養が続いている。




5 上野大仏
(上野公園4-8)

江戸時代初期に寛永寺の境内に釈迦如来坐像の大仏を建立。震災の影響で、頭部が落下した。現在も顔面部分がレリーフ状となって大仏山に安置されている。



6 防火守護地之碑
(千代田区神田和泉町1千代田区立和泉公園内)

発災後の延焼で神田和泉町・佐久間町一帯にも火の手が迫ったが、近隣住民の協力で延焼を食い止め、関東大震災の奇跡と呼ばれた。



関東大震災 防災 クイズ



- Q1 関東大震災の火災被害が大きくなった理由は?** 答え
- ①ガス爆発が起きた ②当時は消防署がなかった ③風がとても強かった
- Q2 区内で震災時に火災が広がらなかった地域はどこでしょうか?** 答え
- ①浅草南部(浅草橋付近) ②谷中地域 ③上野御徒町
- Q3 復興事業で整備された公園・広場はどこでしょうか?** 答え
- ①隅田公園 ②上野公園 ③不忍池
- Q4 家で地震が起きたら、どのような行動をとればよいでしょうか?** 答え
- ①大声を出して助けを呼ぶ ②テーブルの下に隠れる ③急いで外に出る

正解は右下二次元コードから

地震に備えて、家族と話をしよう!

①備蓄品の確認

大地震が起きたら、コンビニ、スーパーの食べ物はすぐに売り切れ。電気やガスが止まってしまうかもしれません。水道が止まってしまうとトイレも流せません。ただ、冷蔵・冷凍庫の食料やカセットコンロを上手に活用することにより、数日分の食べ物は確保できますし、飲料水等を多めに買っておいたり、簡易トイレを備えておけば、自宅で生活を続けることができます。物流が回復するまでの日数を考慮して、最低3日分(推奨7日分)は備蓄しておきましょう。

▼家族に必要な備蓄量を計算して、今家にどのくらい備蓄があるのか確認しよう。

項目	参考	家族に必要な備蓄量	今、家にある備蓄量
食料	人数×3食×3日分		
飲料水	人数×3リットル×3日分		
簡易トイレ	人数×5回程度×3日分		

※このほかにも、必要な備蓄品を家族で話し合っ、事前に備えておきましょう。

②家族との連絡手段の確認

大地震が起きたら、電話やインターネットが繋がらなったり、繋がりにくいことがあります。そんな時でも家族と連絡を取り合えるように、家族で連絡手段を話し合おう。災害時の連絡手段として、LINEなどのSNS以外にも、NTTが提供する災害用伝言ダイヤルや災害用伝言版があります。

家族との連絡手段

LINE
災害用伝言ダイヤル
災害用伝言版
その他() □使い方が分かる

関東大震災をもっと知ろう!

台東区では、「たいとう 関東大震災100年事業」と銘打って、パネル展や各種イベントの実施のほか、関東大震災に関するリーフレットも作成します。詳しくは、右の二次元コード「たいとう 関東大震災100年事業特設ページ」をご覧ください。



▲クイズの正解



▲たいとう関東大震災100年事業特設ページ